

# 1. 評価報告概要表

作成日 2008年12月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1071100232
法人名	株式会社いずみや
事業所名	グループホーム森の家
所在地	安中市安中1-10-17 (電話) 027-381-4401

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年11月27日

## 【情報提供票より】(平成20年 11月 11日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 15年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5人, 非常勤 4人	常勤換算 4人

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨造平屋建 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	37,200 円	その他の経費(月額)	
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	又は1日 1,100円		

### (4)利用者の概要( 11月 11日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	6名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.2歳	最低 76歳	最高 90歳		

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	正田病院 ・ 須藤病院 ・ 室橋歯科医院
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

消防署の隣に位置し近くには市役所もある市内としては中心的なところにある。代表者は事業をしていたので以前より地域では信頼されており、地域の方にはグループホームを理解され応援もされている。ホーム内では手すりなどを設置し、安心や身体機能を活かす努力と認知症の緩和に配慮し、より良い日常生活を送るよう支援している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価において、ケアプランのモニタリングを2~3ヶ月で行っていたのを、毎月行うなど話し合い改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、職員は評価についての意義を理解し、サービスの質の向上にむけて話し合い、管理者が作成し改善に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、市職員・地区役員・家族に参加していただき、ホームについての状況など説明を行い、災害についてなど話し合いが行われている。また、評価についての改善点について報告をしている。市との関係については、近いので些細なことでも相談をしたり、メールで情報交換などを行い連携をとっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情の相談窓口については、入居時に説明し、来訪時に意見要望を聞いている。また、運営推進会議には家族の参加をいただき意見を聞いたり、「森の家」便りなどを発行し、行事の写真などを送り暮らしぶりや健康状態についてその都度報告をしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の一人として自治会に加入し、祭りなどの地域の活動に参加している。また、老人会の慰問や近くの文化センターの催しなどにも参加し、交流に努めている。地元高校のヘルパー2級研修などの受け入れも行っている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目		(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念に「その人らしさを大切に」「生きる喜びを支えるケア」「地域の方々に親しまれる施設づくり」を掲げ、その人らしく暮らし続けることを、事業所開設時から謳っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、毎朝理念を唱和し、理念に基づいて話し合っている。理念の実践にむけて、個人の性格に合わせて日々ケアしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として、自治会に会費を納入し、祭り等の地域の活動に参加するようにしている。老人会の慰問や近くの文化センターの催しなどに参加したり、地元高校のヘルパー2級研修の受け入れをするなど交流に努めている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、評価についての意義を理解している。前回評価を活かして、ケアプランについて2～3ヶ月に1回行っていたモニタリングを毎月にするなど、話し合いを行い具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区区長、民生委員、老人会役員、消防署所長、市職員、市議員、入居者家族等による運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。ホームの状況などを説明し、話し合いなどが行われている。評価について会議の中で話しているが、内容についての記録がない。	○	運営推進会議での評価についての話し合いや意見などについて内容を記録し、次回での検討・懸案事項として継続し検討されることを期待したい。

外部	自己	項目		(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員には、不明な点等があれば相談している。近くに役所があるため些細なことでも直接行ってアドバイスを受れたり、担当者とメールを利用して情報交換等を行い、サービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「森の家便り」を発行し、行事の写真など送ったり、入居者の暮らしぶりや健康状態について、来訪時や直払い時などその都度報告をしている。金銭管理は、買い物場合は報告も併せてレシート精算をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を書類に明示し、入居時に家族等に説明している。また、来訪時にはコミュニケーションをとり、何でも言える雰囲気作りに努め、運営推進会議では家族の方に参加していただき、意見を聞くように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定年退職者は、日頃の会話から家族や入居者に早めに話をしダメージを与えないようにしている。退職後も、遊びに来ている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、職員が順番で県の認知症研修、介護研修、市役所の会議などに参加している。研修の結果は、スタッフ会議や、申し送りで報告し実践している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、西部ブロックでの交流や、安中市のケアマネージャー会議などで情報交換しサービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、本人、家族に見学をしてもらい、お茶を飲むなど過ごしてもらい雰囲気に馴染めるようにしている。入居後は、できるだけ職員が寄り添い、短期間の間は集中して一日対応し、徐々に馴染れるように支援している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	うどん作りなどの料理、裁縫など得意なものを教えてもらっている。毛糸などで昔遊んだ「あやとり」などもしている。共に支え合う気持ちを大切にしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの性格の違いもあり、散歩の際や1対1で話をする等その方に合う方法で希望など聞きだすように言葉づかいに気をつけている。本人から聞き出せない場合は家族に聞いている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成は、サービス担当者会議において話し合い、本人で対応出来る入居者には聞くが出来ない入居者は家族に聞いている。医師にも往診時にアドバイスをうけている。計画はスタッフと関係者で作成している。	
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期、長期で見直しをしているが、1ヶ月でモニタリングをしている。状況に変化がある時は直ぐに見直し、家族の了解の上でケアしている。現状と計画のずれのないように計画作成をしている。	

外部	自己	項目		(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、受診の付き添い、ドライブや外食等その方の希望する場所に行ったり、入退院時等の対応などの支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の希望する医療機関での受診を支援している。家族にも説明している。家族の希望医療機関で定期的に受診をしている。協力病院の往診は、月に2回受けている。健康診断は年1回行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の状況により、その都度入院を含めて医師、家族と話し合っている。	○	これから直面する問題であるので、家族・医師と話し合っ てホームが対応出来るケアについても説明し、状況変化 に応じ関係者と繰り返し話し合い記録し、関係者全員で方 針を共有することを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、穏やかな声かけを行い、細やかな気配りをし、入居者の誇りを尊重した対応をしている。記録等の個人情報は、事務所で記入し保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気持ちや状態等のその人の状況に合わせて、散歩、買い物等の希望を取り入れた気分転換を考えたり、その人のペースに合わせた支援をしている。		

外部	自己	項目		(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの希望をふまえて、その人にあったうどん作り、じゃがいもの皮むき、ほうれんそうづくりなど楽しみながら関わっている。楽しく一緒に食事をし、食器も日常個人が使用しているものであり、後かたづけも出来る方は手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は、月曜と金曜日の午後としている。入浴の順番を決めて、入居者の希望に合わせて入浴している。入浴の順番を拒否する場合もあるので、替えたりして対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や本人の希望を把握するなかで、農家の経験者が多いので家庭菜園で作物などを作っている。また、テーブル拭きや日めくりなどをしてもらったり、外食や見学など楽しみごとを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は外にテーブルを出して日光浴をしながらおやつなどを楽しんでいる。また、家庭菜園作りや近所の散歩やドライブなどで外出を楽しんでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は、施錠の弊害について理解している。玄関や出入口については温かい穏やかな日は開放し、日中は施錠はせずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回の避難訓練、誘導訓練を入居者と共に行っている。隣が消防署であり、常に密に連携をとっている。運営推進会議で災害対策について話をしている。		

外部	自己	項目		(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は摂取状況を毎日記録し、その人の習慣により無理のないように提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南ホールに応接セットを配置し、日光浴ができるように配慮している。壁には写真や枯葉の飾りつけをし季節感を表すなど居心地よく過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた椅子や動物の好きな入居者は動物のぬいぐるみが置かれたり、家族の写真なども飾り、入居者の好みに家具の配置も考えて居心地よく過ごせるように工夫している。		